２学年国語科学習指導案

平 成 ○ ○ 年 ○ 月 ○ 日
○年○組児童数○○名
指 導 者 ○ ○ ○ ○

１．単元名　「こんなものがほしいなあ」

２．単元の目標
○自分が一番紹介したい事柄を見つけ、紹介の仕方を工夫する。
○聞き手に分かるように事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさずに聞いたり、質問したりする。
○考えた理由や使い方などを、友達に伝えるためのメモを書く。

単元の評価規準
国語科の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力
・自分が一番紹介したい事柄を見つけ、紹介の仕方を工夫することができる。	・聞き手に分かるように事柄の序を考えながら話すことができる。 ・大事なことを落とさずに聞いたり、質問することができる。	・紹介しようとするものについて必要な事柄を集めて書くことができる。

プログラミング学習の評価規準

論理思考力	プログラミングの技能
・考えたマシンの説明に合わせたプログラムを作成することができる。	・聞き手に分かるように、考えたマシンの動きをプログラミングすることができる。

３．単元観（プログラミング学習との関連）
「こんなものがほしいなあ」は児童一人一人があったらいいなと思うものを楽しく自由に想像できる内容である。自分で考えた『こんなものがほしいな』について、話す順序を考えながら、聞き手に分かりやすいように話す力をつけることをねらいとしている。また、大事なことを落とさずに聞き、アドバイスをしたり、興味をもって質問をしたりして話し合う力・コミュニケーション能力をつけさせたい。

４．児童の実態
話すことが好きな児童が多く、友達のことや休みの日の出来事を積極的に教師に話しかけに来たり、友達同士で話したりしている。理由や考えが不十分であったり、自分の話が先になり友達の話を最後まで聞くことができなかったりする。朝の会のスピーチでは昨日の出来事や将来の夢などのお題に対し自分の考えや理由を発表する機会を重ねるうちに少しずつ理由を詳しく話せるようになってきた。また、友達のスピーチに耳を傾け、質問をできる子が増えてきている。聞き手のことを意識しながら相手にわかりやすく話すことや、大事なことを落とさずに聞き、話題に沿って話し合ったりする機会はまだまだ不十分であり、これからつけたい力である。

５．研究主題に迫るための具体的な手立て

（１）論理的思考力の育成

「こんなものがほしいなあ」を自由に想像させ、プログラミングで発表するという学習課題を設定し、自分の考えたマシンのいいところを聞き手に分かってもらうことの大切さ、相手意識や目的意識をもたせて学習ができると考えた。考えた理由や使い方などを順序立てて分かりやすく伝えられることを意識させて説明文を書くことで論理的思考力が高められると考えた。

（２）文化的創造力の育成

プログラムした作品を見て、マシンの使い方やマシンを使うとこんなにいいことがあるということを考えながら聞くことで、多種多様な考えがあると気づき想像することのおもしろさを感じ取らせることができると考えた。

（３）コミュニケーション力の育成

友達がプログラムした作品を見て、もっとこうしたらよくなるというアドバイスや、もっと知りたいことを質問してりして、お互いに自分の考えを伝えあう場を設定することで、コミュニケーション能力を高めあえると考えた。

（４）表現力の育成

自分の考えたマシンを絵で表し、プログラミングで実際に動かすことで、より楽しく思い思いのマシンを表現できると考えた。

６．学習指導計画（１１時間扱い）

次	時数	学習内容	指導上の留意点	☆支援 ◇評価【評価方法】
１	１	○単元の見通しをもつ。	・教師の用意した『なんでもマシーン』を見せ、単元の見通しをもたせる。	◇『こんなものがほしいなあ』と思うものを一生懸命考えようとしている。 【観察・ノート】
	２	○「こんなものがほしいなあ」と思うもののアイディアを考え、一番紹介したいものを選ぶ。 ○ワークシートに事柄をまとめる。	・「あったらいいな」に着目させる。(便利、困っていること、みんなが驚くようなことなど)	◇紹介したい作品を選びワークシートにかいている。 【観察・ワークシート】
２	３	○ワークシートをもとに班で発表する。聞き手は友達の説明した内容に対して感想やアドバイスを伝える。	・話すとき、聞くときの大事なことを確認し掲示する。	◇友達の説明に興味をもって聞き、アドバイスや感想を言っている。 【観察・発表】
	４	○友達の感想やアドバイスをもとにワークシートの手直しをする。	・話し合いがしやすいよう机の配置を指示する。	◇紹介しようとするものについて必要な事柄を集めて書いている。 【観察・ワークシート】
	５ ６ ７	○事柄の順序を考えメモを作成する。 ○メモをもとに作文を書く。	・順序良く書きやすくなるよう、『考えた理由・使い方・こんなにいいことがある』を３色のメモを用意する。	◇聞き手に分かるように順序良くまとめている。【観察・メモ・作文】
	８ ９	○プログラムする絵を描きプログラミングする。 ○発表の練習をする。		◇聞き手に分かるように順序良く話す練習をしている。 【観察】
３	１０ １１	○「こんなものがほしいなあ」の発表会を行う。		◇聞き手に分かるように順序良く話している。 【観察・発表】

7．本時の学習（１０／１１時間）

（1）ねらい

〇聞き手に分かるように事柄の順序を考えながら話す。（話す・聞く）

〇大事なことを落とさずに聞いたり、質問したりする。（話す・聞く）

（2）展開

	主な学習活動	指導上の留意点	☆支援◇評価【評価方法】
導入	１．前時までの流れを確認する。		
展開	２．本時の学習のめあてを確認する。 **「こんなものほしいなあ」を分かりやすくせつ明しよう。** **友達のせつ明を聞いて質問したり感想を言ったりしよう。**		
	３．話すとき・聞くときの注意することを確認する。 ＜話すとき＞ 聞き手に伝わるように ・はっきりした声で ・前を向いて ・順序良く ＜聞くとき＞ ・話し手を見て ・うなずきながら ・耳と心で聞く ・疑問に思ったことを質問したり、感想を伝えたりする。	・話すとき・聞くときの注意点を一つずつ児童に発表させ、黒板に掲示する。 ・全員が話し手と聞き手を経験できるように時間の目安を決める。	◇聞き手に分かるように事柄の順序を考えながら話している。 【観察・発表】 ☆指し示しながら聞き手に分かりやすく説明しても良いことを助言する。 ☆発表に詰まる児童には発表メモを見ながら発表するように声を掛ける。 ◇大事なことを落とさずに聞いたり、質問することができる。 【観察・発表】 ☆多面的な質問をするように声を掛ける。 （例） ・もし電池が切れたらどうしますか。 ・持ち運びたいときにはどうしますか。 ☆質問する時の話型を示し、意識できるように助言する。
	４．グループごとに分かれ、「こんなものがほしいなあ」の発表を行う。	・時間が余ったグループは自己評価カードを記入させる。	
まとめ	５．本時の振り返りをする。 ６．次時の予告を聞く。	・自己評価カードに記入させ、感想を発表させる。	